

CONTENTS

WEDGE_SPECIAL_REPORT

12 きしむ日本の建設業 これでは国土が守れない

Part 1 INTRODUCTION

14 建設業の魅力向上の〆本丸、は「働き方改革」にあらず 編集部

Part 2-1 REPORTAGE

18 外国人に頼りきる日本の建設現場 このままでは行き詰まる
出井康博 ジャーナリスト

Part 2-2 CRAFTSMAN

22 ベテランと若手職人に聞く 建設業界の課題と醍醐味 出井康博 ジャーナリスト

Part 3-1 REWARDING

24 知ってほしい現場の実態 分かってほしい私たちの仕事を 編集部

Part 3-2 UNSUNG HERO

28 縁の下の力持ち 監理技術者の仕事とは? 編集部

INTERVIEW 1

30 変わることは大変 それでもホワイト化こそが生きる道だ
蟹澤宏剛 芝浦工業大学建築学部建築学科 教授

Part 4 ENGINEER

32 関東大震災から100年 未来を見つめた技術者たちの想い
紅林章央 東京都道路整備保全公社 道路アセットマネジメント推進室長

INTERVIEW 2

36 進むインフラの老朽化に 建設業界はどう対応すべきか 三木千壽 東京都市大学 学長

Part 5 EDUCATION

38 「地元のインフラは地元で守る」〆足元、支える高専の挑戦 堀川晃菜 サイエンスライター

INTERVIEW 3

41 現場の技術力と魅力を高めるには業界慣行の改革は必須 森地 茂 政策研究大学院大学 客員教授、名誉教授

Part 6 LOCAL COMPANIES

42 見えないところに今日もいる 災害・異常時支える建設業 編集部

45 **COLUMN** 「自分たちの道は自分たちで直す」道普請人の思わぬ副産物 編集部

INTERVIEW 4

46 誤解を恐れずあえて言う 持続可能な建設業への提言
宮本洋一 一般社団法人日本建設業連合会 会長、清水建設 代表取締役会長

DISRUPT/GETTY IMAGES



WEDGE_OPINION

8 混乱続くマイナンバー 「長期視点」で将来像を描け

安岡美佳 デンマーク・ロスkilde大学 准教授

52 慢性的人手不足の自衛隊 日本版予備役制度の創設検討を

勝股秀通 日本大学危機管理学部 教授

64 「核廃絶」と「核抑止」は矛盾せず 日本は堂々と世界に主張せよ

金子熊夫 外交評論家・元外交官

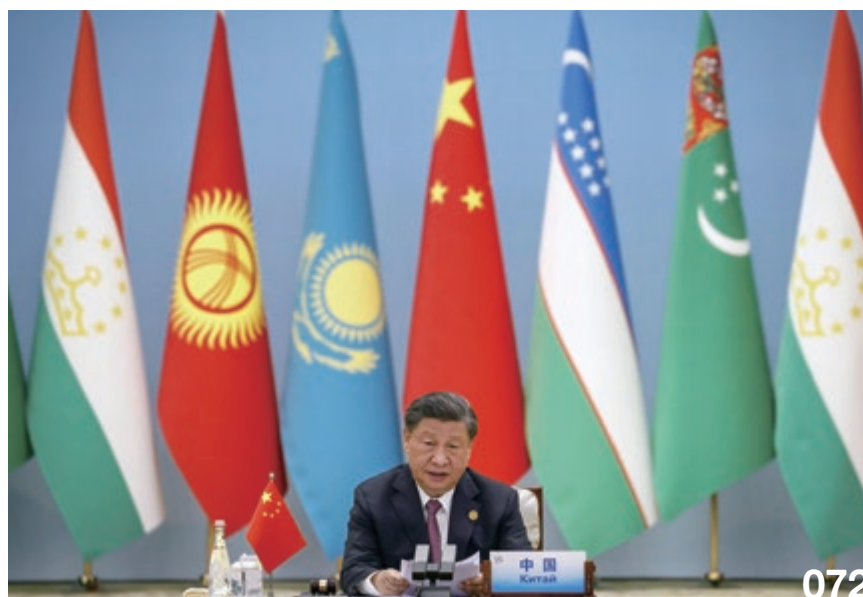
72 中国が目論む「勢力圏」の拡大 問われる日本企業の「選択」

久末亮一 日本貿易振興機構（JETRO）アジア経済研究所 副主任研究員

WEDGE_REPORT

58 「水」は世界企業の戦略物資 日本流でリスク管理の強化を

橋本淳司 水ジャーナリスト



WEDGE_REGULARS

55 **新連載** 誰かに話したくなる経営学 | 岩尾俊兵 部下は人間だけにあらず AI時代のマネジメント力

62 **新連載** 偉人の愛した一室 | 羽鳥好之 織田有楽斎「如庵」(愛知県犬山市)

68 インテリジェンス・マインド | 小谷 賢 米国の参戦を決定づけた 英国情報機関の暗躍

75 MANGAの道は世界に通ず | 保手濱彰人 松下幸之助に通じる「内観」 「スキップとローファー」

77 近現代史ブックレビュー | 筒井清忠 『池崎忠孝の明暗 教養主義者の大衆政治』 佐藤卓己

79 **新連載** 商いのレッスン | 笹井清範 安売り経営脱却のヒント

80 時代をひらく新刊ガイド | 稲泉 連 『ルポ 国際ロマンス詐欺』 水谷竹秀

82 **新連載** フィクサー | 真山 仁 プロローグ

90 **新連載** モノ語り。 | 水代 優 変える価値と、変わらぬ価値 伊勢・二軒茶屋餅

61 拝啓オヤジ 相米周二

71 各駅短歌 穂村 弘

81 一冊一会

94 読者から/ウェッジから



混乱続くマイナンバー 「長期視点」で将来像を描け

マイナンバーを巡るトラブルが多発しており、国民の不信感が高まっている。日本のデジタル化はどこに問題があるのか。デンマークのデジタル国家への歩みから示唆を得る。

個

人のマイナンバーに別人の情報が紐づけられる事象が多発し、混乱が広がっている。具体

的には、公金受取口座や健康保険・年金情報の紐づけ間違い、マイナンバーカードを使った証明書のコンビニ発行サービスでの不具合などが相次ぎ、その原因は自治体や健康保険組合職員の手作業による人為的なミスやシステムの設計ミスなどにあるとされている。

岸田文雄首相は6月、「マイナンバー情報総点検本部」を設置し、関連する全てのデータの点検を今秋までに完了するように指示した。日本政府は現行の健康保険証を2024年の秋に廃止し、原則としてマイナンバーカードと一体にした「マイナ保険証」に移行する方針を決定しているが、トラブル



YOSHIO TSUNODA/APLO

マイナポイントの交付でマイナンバーカードの普及拡大を図ってきたが……

が後を絶たないことで、与野党から延期の検討を求める声が上がっている（7月28日現在）。

日本のマイナンバー制度は16年に開始した。総務省によると、7月23日時点のマイナンバーカードの交付率は74・5%だが、その数字が急速に伸び始めたのは新型コロナウイルスの感染が拡大した20年以降である。

日本の報道を客観的に見ていると、近年、マイナンバーの利用拡大やカードの普及自体が目的化し、グラウンドゼロの不在もさることながら、国民にそのメリットが伝わらないまま早急にデジタル化を進めすぎている印象を受ける。

私の住むデンマークは、国連が発表する最新の世界電子政府ランキングで1位であり、実生活の中でデジタル化



安岡美佳
Mika Yasuoka

デンマーク・ロスキレ大学 准教授
京都大学大学院情報学研究所修士、東京大学工学系先端学際工学専攻を経て、2009年にコペンハーゲンIT大学博士号取得。同大学助教、デンマーク工科大学リサーチアソシエイトを経て現職。北欧研究所代表を兼務。専門はAI、ロボット、ITの社会実装。共著に『北欧のスマートシティ』（学芸出版社）。

Wedge Special Report

きしむ日本の建設業 これでは国土が守れない

残業規制より本質的課題にメスを入れよ

出井康博、蟹澤宏剛、紅林章央、三木千壽、堀川晃菜、森地茂、宮本洋一
編集部（野川隆輝、友森敏雄、野口千里）

道路や橋、高層ビルに新築戸建て……。

誰もが日々、当たり前のように使うインフラや建築物にも、それらをつくり、支える人たちがいる。

世は「働き方改革」全盛の時代——。その大波は建設業界にも押し寄せる。

だが、目先の労働時間削減だけでなく、直視すべきは深刻な人手不足や高齢化、上がらぬ賃金などの課題だろう。

インフラや建築物は、まさに日本の「機能」であり「国土」そのものでもある。

「これまでの、当たり前を、これから、続けていけるのか——。

その分水嶺にある今、どのようにして国土を守っていくべきか、立ち止まって考えたい。



Part 1

INTRODUCTION

建設業の魅力向上の「本丸」は「働き方改革」にあらず

2024年4月、遂に建設業にも時間外労働の上限規制が適用される。だが、それだけでは到底解決しない課題がある。まずは業界内の反応を探ろう。

文・編集部（野川隆輝、友森敏雄）

猛

暑が続いている。工事現場では、安全のため暑い夏でも半袖は厳禁だ。夏場は左右の脇腹にファンのついた「空調ジャケット」を着ることが定番になった。だが、「35度を超えると、ドライヤーの熱風を浴びているようだ」と技能者（職人）の一人が教えてくれた。

ニュースでは連日、キャスターや気象予報士が「猛暑日なので、不要な外出は控えてください」と呼びかける。そんな過酷な状況の中、家族のため、夢のため、住宅ローン返済のため……、さまざまな思いを持った人たちが働いていた――。

そんな現場をよそに、エアコンが効いた快適な「会議室」では建設業界の働き方改革の検討が進められている。

2024年4月を前に、建設業界が慌

ただしいのはこのためだ。19年に施行された時間外労働の上限を定める改正労働基準法が、5年間の猶予期間を経て遂に適用される（15頁図）。上限を超えた場合は、使用者に対する罰則規定もある。

今年3月に行われた斉藤鉄夫国土交通大臣と建設業関連団体の意見交換会では、働き方改革の推進が主要テーマとなり、全ての関係者が週休2日（4週8休）の確保をすることなどにより、工期の適正化に取り組むことも申し合わされている。

国交省の担当者は、「厚生労働省と連携して働き方改革を進めることで業界全体の底上げを図り、建設業の魅力向上と担い手の確保につなげたい」と意気込む。

たしかに、建設業の働き方はハードだ。国交省の公表資料によれば、全産



ベテランと若手職人に聞く

建設業界の課題と醍醐味

「現場の課題と仕事の醍醐味とは？」この道30年のベテラン大工と、鍛冶工としてスタートしたばかりの若手職人の本音に迫る。

文・出井康博 ジャーナリスト

片山淳一さん(仮名)
50代・大工

私が建設業界に入ったのは、学生時代のアルバイトがきっかけです。当時はバブル景気の真っ只中で、今と同じように職人が不足していた。学生バイトにも1日1万2000円を支払ってくれたほど。現場にはいい人が多くてね。だから一般企業には就職せず、大工の道に進むことにしました。昔も今も大卒の職人なんて珍しいです。今となっては、人生を間違ったのかもかもしれません(苦笑)。

大工をやって30年以上経つので、現場の職長を任せられ、若い人を教える機会も増えていきます。でも日当は1万8000円です。残業すると少しは増えますが、学生バイトの30年前とそんなに変わらない。業界以外の人は驚く

でしょう。これが建設現場の現実です。

国交省が「職人の賃金を上げるため」と始めたCCUS(建設キャリアアップシステム)によって給与に還元されているという実感はない。それなのに登録料だけはしっかり取る。制度をつかった人の意図は私には分かりませんが、CCUSを運営しているのは国交省の関連機関なので、自分たちの居場所づくりのためなのではないかと穿った見方をする職人が多い。

やはり国交省が推進する「週休2日制」も評判が悪い。現場はどこも週休1日で動いています。それでも人手が足りず、工期に間に合わせるのがやつの状態。週6日でやっている仕事を5日ですることになれば、今でも厳しい現場の負担がさらに増すだけ。

休みが増えれば、そのぶん私たちの収入も減ってしまう。役所が本気で「週

休2日になれば職人を目指す人が増える」と考えているとしたら首をかじげざるを得ません。今年10月から導入される「インボイス制度」も個人事業主の「一人親方」には大打撃。いっそう職人が減るに違いない。

建設業界の問題は、大手ゼネコンにあるのではないかと個人的には思っています。「スーパーゼネコン」と呼ばれる大手の売上高は、どこも年1兆円を超えている。その売上高をもっと増やそうと、施主から安い価格でプロジェクトを受注する。ゼネコンは受注額が安かろうと、中抜きするるので基本的に損はしない。そのぶん割を食うのは、安い単価で仕事を割り振られる1次以下の下請けです。1次下請け、2次下請け、そして末端の職人へと、ゼネコンのツケが順番に回されている。

私は1次下請け業者の社員ですが、



VECTRO/BETTINA/AGES

社長は普段からもちろん、コミュニケーションなのでしようが、ゼネコンの担当者たちの夜の会食に励んでいきます。少しでもよい条件で仕事をもらうこと。スーパーゼネコンから回ってくる仕事は年単位の大型プロジェクトが多いんです。だから安く叩かれても、長期の仕事を確保しようとしてしまいます。

大型プロジェクトには、ゼネコン関

ち

ようど100年前

——。1923（大正

12）年9月1日午前11

時58分、関東大震災の

激しい揺れが帝都を襲った。東京市内では約7万人が命を落とし、市域の43・6%が焦土と化した。しかし、この未曾有の災害時に内閣は不在であった。

8月24日に加藤友三郎首相が病気で亡くなり、28日に山本権兵衛に組閣の大命が下ったが、最大勢力の政友会や有力政治家の協力が得られぬまま難航していた。そんな中、初代鉄道院総裁や東京市長も務めた後藤新平が動いた。9月2日早朝、後藤は山本を訪ね、固辞していた入閣を受諾。また余震や大火が収まらぬその夜に、赤坂離宮の芝生の上で親任式が行われ、後藤は復興を所管する内務大臣に就任した。

後藤は矢継ぎ早に対策を打ち出した。9月9日には事業費41億円の復興案を発表。27日には内閣の中に帝都復興院を立ち上げ、後藤は大臣にあたる総裁に就任した。復興院の幹部には、鉄道院総裁時代の腹心の部下で戦後に国鉄総裁として新幹線建設を推進し、「東海道新幹線の生みの親」と呼ばれ

関東大震災から100年 未来を見つめた技術者たちの想い

隅田川に架かる橋の形は実に多彩で、「橋の博物館」とも呼ばれる。このような川は世界でも稀だ。関東大震災から100年を迎える今、復興に込められた当時の土木技術者たちの想いに迫る。



文・紅林章央 Akio Kurebayashi
東京都道路整備保全公社
道路アセットマネジメント推進室長



Part 4

ENGINEER

隅田川に架かる橋の一つ、永代橋。工事費はトラス橋の3倍以上に上ったが、耐久性に優れ、東京大空襲の空爆にも耐え抜いた

THE MAINICHI NEWSPAPERS/AFLO

今

年6月2日、愛知県豊橋市には朝から大雨（浸水害）警報と洪水警報が発令されていた。

家屋の浸水や自動車の水没など、甚大な被害をもたらした台風2号の襲来は記憶に新しい。市内全域に避難指示が出され、行政は住民に身の安全確保を呼びかける。そんな中、地域の建設会社に勤める社員が向かった先はいつもの職場だった。

「道路の浸水に備えて、朝からトラックに看板やバリケードを積み込み、現場に向かう準備をしていました」

藤城建設（同市）の丹治考詞土木部長はこう振り返る。同社はこの日、県道69号豊橋乗本線の大江川に架かる鷺橋の担当で、行政からは実際に浸水したら通行止めにするよう指示を受けていた。雨脚は徐々に強まり14時30分頃、浸水が始まったという。

「すぐに通行止めにはしましたが、それでも通ろうとする車はいるし、『これくらいなら通れるだろ！』と文句も言われる。行政の職員が来ることはないので、実際に現地を見て状況判断し、対応を報告・進言します」

当然ながら通行止めには「解除」が

見えないところに今日もいる 災害・異常時支える建設業



Part 6

LOCAL COMPANIES

建設業は「地域の守り手」と形容される。その存在の大きさが発揮されるのは「異常時」だ。今日もまた、見えないところでどこかの建設会社がわれわれの日常を支えてくれている。

文・編集部（野川隆輝）



愛知県を襲った台風2号は、家屋の浸水や自動車の水没など、甚大な被害をもたらした

PHOTO BY KYODO NEWS/GETTYIMAGES



工業用水としての重要性が高まる水資源。*使いっぱなし。は許されなくなっている

WEDGE REPORT

「水」は世界企業の戦略物資 日本流でリスク管理の強化を

多くのグローバル企業が水不足地域で製造施設を運営しており、水リスク管理が求められている。持続的に水を活用するために日本企業と地域は今後、どのようなことをしていくべきなのか。



文・橋本淳司 Junji Hashimoto
水ジャーナリスト



業の生産活動に水は欠かせないが、多くの水資源を使用する業種とは何か。経済産業省に

よると、日本における工業用水の業種別使用割合は、パルプ・紙・紙加工品製造業（27%）、化学工業（22%）、鉄鋼業（14%）だが、近年は莫大な水量を使用する業種が登場している。半導体産業である。半導体は特定の物質を加えて用途ごとの電気的性質を与える。不純物が付着すると性質が変化してしまうため、洗浄に純度の高い水が大量に使われる。

台湾の半導体大手、台湾積体電路製造（TSMC）のCSRレポートによると、2019年には台湾の3つの科学工業団地で、1日当たり合計15万6000トン、20年には同19万3000トンの水を使用した。半導体が高性能化し回路線幅が小さくなると不純物を取り除くための水使用量はさらに増え、次世代チップは1・5倍の水を消費すると予測されている。

意外なところではChatGPTだ。米カリフォルニア大学の研究チームのレポート「Making AI Less 'Thirsty」によると、ChatGPTのトレーニング

「核廃絶」と「核抑止」は矛盾せず 日本は堂々と世界に主張せよ

被爆地・広島でのG7サミットは記憶に新しいが、世界の核の脅威はより強まる一方だ。核廃絶と核抑止力強化は矛盾するかに見えるが「両立は可能」だとする筆者の見解とは。

毎

年この時期になると年中行事のように、核問題に関する話題がメディアを賑わせる。

特に今年は、ウクライナ戦争で行き詰まったロシアが局面打開を狙って戦術核兵器を使う可能性が懸念されており、世界的に不安が高まっている。

こうした不穏な状況の中で、5月に被爆地・広島で開催された主要7カ国首脳会議（G7サミット）では核の脅威が大きく取り上げられ、核軍縮への努力を謳った「広島ビジョン」なるものが採択された。各国首脳が揃って原爆ドームの前で黙禱し、犠牲者に献花したことも有意義なことであった。

しかし、広島や長崎の被爆者たちの間からは、サミットの成果は全く不十分だったとの不満と落胆の声が聞かれ



金子熊夫
Kumao Kaneko

外交評論家・元外交官

1937年生まれ。米ハーバード大学法科大学院卒。外務省で初代原子力課長、日本国際問題研究所研究局長などを歴任。退官後、東海大学教授（国際政治学）。現在、エネルギー戦略研究会会長を務める。著書に「日本の核・アジアの核」（朝日新聞社）、「小池・小泉「脱原発」のウソ」（飛鳥新社）。

る。「広島ビジョン」では核廃絶へのはっきりした道筋が示されていないからだった。

私事ながら筆者自身、外務省退官後の一時期、1990年代の約10年間、広島、長崎両市長の外交顧問のような立場にあり、被爆者たちとも緊密に交流していたので、その方々の切実な気持ちは痛いほど分かる。

当時はソ連崩壊、冷戦終了直後で、核軍縮・廃絶への機運が世界的に盛り上がっていた。この時期に、私は、核戦争防止国際医師会議（IPPNW）日本支部の特別顧問の資格で、他の国際NGOと協力して、「北東アジア非核兵器地帯条約」や「核兵器禁止条約」（TPNW）の草案作りにも取り組んでいた。

しかし、その後世界各地で戦争や地

戦術核兵器の脅威に晒されるゼレンスキー大統領は今、何を思うのか

新連載小説

第1回

プロローグ

フイクサー

真山仁 Jin Mayama

ス

キャンダルは、甘い蜜だ。
セレブだ芸能人だと取り澄ました奴らの化けの皮が剥がされ、蔑む時の快感は堪らない。

時代が変わっても、スキヤンダルの魔力だけは、けっして衰えない。いや、SNSの隆盛で、このところの熱狂ぶりは常軌を逸している。

人々に鬱憤が溜まっている時には、スキヤンダルの発覚こそが、社会を活性化する効果があるという社会学者すらいる。

そして、伊達正義にとっては、スキヤンダルは飯のタネだ。

今夜も、高級スーツをまとった男がスキヤンダルのせいで、土下座して助けを乞うている。

「こんな深みに嵌まると思ってたんだ。気がつくとは戻りできなくなっていた。全てを失っても、あの子と添い遂げたいと思ったんだ」

あの子、とは十四歳の美少年のことだ。

泣きながら、土下座しているのは、将来を囑望されている与党の国会議員。ハーバード法学院を修了し、美貌の妻と可愛い娘を二人持つ、「全てを持っているイケメン議員」だ。

「先生、お顔を上げて下さい」

「じゃあ、助けてくれるんですか」

二日前、二人が「愛し合っている」ところを撮影した数枚の写真が、議員個人のメルアドに送られてきた。

送信者は、「風紀係」で、議員はその人物と明日、会うらしい。

「相手からの要求は？」

「カネのようだ」

「金額は？」

「三千万」

たとえカネを用立てても、一度払えば、次々と強請られ続ける。そして、支払いが切れた時、「愛の形」は、週刊誌のグラビアを飾る。

「カネは払う。だが、一度きりにしたい。なので、何とかもみ消してもらえないだろうか」

「先生のお相手についての情報を戴けませんか」

美並翔、十四歳、都内の名門私立中学校の三年生だという。それ以外に分かっているのは、携帯の番号だけ。

「出会いは？」

「友人の紹介だよ」

「先生が、翔君以外に、少年とおつきあいをされたことは？」

「あの子が初めてだ。それに、少年を買ったことは、ない」

男は、ようやく起き上がったソファに腰を下ろした。伊達が話を聞いて安心したのか、ひと息つくようにアイコスを口にくわえた。

「でも、買われたことはあるんでしょ」

「それは、ノーマルで」

「若い女性、ですか」

「二回ぐらいだよ」

その数倍は、斡旋してもらっているということか……。

「若いとは、何歳ぐらいです？」

「それが、今回の一件と関係があるか？」

「もしかして、女性も未成年で、そのご友人から、未成年だったら少年の方が素晴らしいと勧められたのかと思ったものですか」

議員は、放心したようにこちらを見ている。

あやうくアイコスを落としそうぐらい驚いている。

つまり、推測通りということだ。

「今まで少女を紹介してもらった方と、今回の翔君の紹介者は、同じですか」

「いや、彼から紹介を受けたのは、初めてだ。君が言うように、まさに奨めてくれたんだ」

「その方の情報を戴けますか」

議員はスマホの連絡先画面をこちらに見せた。